

## 定款第 2 次試案アンケートの集計結果

日本天文学会運営検討委員会

昭和 45 年 2 月 1 日

昨年(昭和 44 年)の天文月報 12 月号誌上において、定款の第 2 次試案の提案と、これにともなうアンケートが配布された。

2 月 1 日、運営検討委員会で、集まった 311 通のアンケートについての集計・分析が行なわれた。

アンケートの項目はきわめて多岐にわたっており、よせられた回答も設問のわくをこえてさまざまな問題を含んでいるので、詳しい分析は今後必要な問題ごとにさらに進めることとして、集計の結果と、当面の改革の方向を定める上で必要な問題についての分析を、ここに報告する。

### (1) アンケートの回答者について (第 1 表)

通常会員、特別会員の回答率は、それぞれ約 15%、28% である。これは、期待されたよりやや少ない感があるが、試案、アンケート共に長文のものであったことを考慮すれば、やむを得ないであろう。

回答は、特に通常会員にきわめて熱心な記入者が多く、今後の学会活動上、貴重な資料となるだろう。

### (2) 第 2 次試案への原則的賛否 (第 2 表)

第 2 表にみるように、会員の別を問わず、賛成者が圧倒的に多い(賛成者は、全回答者の 91%)。特別会員の反対者 11 名のうち、10 名までは関東支部である(回答

した特別会員のうち、関東支部は 53 名)。

賛否の条件としては、さまざまの、時には全く相対立する立場からの意見が寄せられている。反対の理由とする主なものをあげると、

- ・天文学会は研究者のみとせよ [特別 2]
- ・今までの定款でよい(運用で解決) [特別 2]
- ・準会員制廃止反対(アマの切りすてだ) [通常 2]
- ・正会員の紹介制に反対 [通常 2]
- ・立候補制に反対 [特別 1]

これらについては、すでに何度かの委員会報告で検討結果が発表されており、これらを含めて、今回のアンケート結果が得られている。委員会としては、第 2 次試案が、会員大多数の賛成を得たものとして、大すじとしてはこの方向で最終答申を作成し、春の総会に間に合うよう作業を進めることになった。

また、会費の値下げ、評議員会の不信任投票などの意向がかなり強く出されているので、これらについてその可能性を検討している。

### (3) 希望する会員種別 (第 3 表)

会員制度の改革によって、会員が大幅に減るのではないか、という心配も一部にあったが、この回答にみるかぎりには、通常会員の大部分は正会員 A に、一部が正会員

第 1 表

| 年 令       | 通 常 | 特 別 | 終 身 | 名 誉 | 賛 助 | 計   |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 15 才以下    | 9   | 0   | 0   | 0   |     | 9   |
| 16 才—18 才 | 39  | 0   | 0   | 0   |     | 39  |
| 19 才—22 才 | 59  | 0   | 0   | 0   |     | 59  |
| 23 才—30 才 | 28  | 20  | 0   | 0   |     | 48  |
| 31 才—40 才 | 38  | 27  | 0   | 0   |     | 65  |
| 41 才—50 才 | 21  | 28  | 0   | 0   |     | 49  |
| 51 才—60 才 | 11  | 9   | 0   | 2   |     | 22  |
| 61 才以上    | 9   | 3   | 2   | 0   |     | 14  |
| 無 回 答     | 2   | 4   | 0   | 0   | (1) | 7   |
| 計         | 216 | 91  | 2   | 2   | 1   | 312 |

第 2 表

| 第 2 次 試 案 に | 通 常 | 特 別 | 終 身 | 名 誉 | 賛 助 | 計   |
|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 原 則 的 に 賛 成 | 204 | 75  | 2   | 2   | 1   | 284 |
| 原 則 的 に 反 対 | 7   | 11  | 0   | 0   | 0   | 18  |
| 無 回 答       | 5   | 5   | 0   | 0   | 0   | 10  |

第 3 表

| 希 望 会 員 種 別              | 通 常 | 特 別 | 終 身 | 名 誉 | 賛 助 | 計   |
|--------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 正 会 員 A                  | 169 | 7   | 0   | 0   | 0   | 176 |
| 正 会 員 B                  | 33  | 83  | 1   | 1   | 0   | 118 |
| 賛 助 会 員<br>(月 報 定 期 講 読) | 1   | 0   | 0   | 0   | 1   | 2   |
| 無 回 答                    | 9   | 0   | 0   | 0   | 0   | 9   |
|                          | 4   | 1   | 1   | 1   | 0   | 7   |

Bに、特別会員の大部分は正会員Bになることを希望している。むしろ、これを機会に欧文報告をとらうとする通常会員がかなり多い。

このアンケートをもとにして、新制度下での会員数の予測を試みたが、アンケート回答者の統計上の母集団としての性格づけに幅があるため、以下の点が推論されたとどまった。①会員数が大幅に減ることはいないだろう。②正会員Bの数は特別会員程度で、その後少しずつふえるだろう。③正会員Aの数は、会費の額によってかなり左右されるだろう。

#### (4) 会費案について (第 4 表)

適当とするものが、予想以上に多かった。しかし、通常会員のうち、高すぎるとする者 77 名は、通常会員の回答者数の 36% にあたり、特に 20 才以下の若い会員に高すぎるとする者の多いことは、会費案に検討の必要があることを示している。「高すぎる」と答えた会員のうち、適当と思われる正会員Aの会費として、1,500 円をあげたものがめだって多かった。

第 4 表

| 会 費 案 に つ い て | 通 常 | 特 別 | 終 身 | 名 誉 | 賛 助 | 計   |
|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 高 す ぎ る       | 77  | 13  | 0   | 0   | 0   | 90  |
| 適 当 で あ る     | 128 | 66  | 2   | 2   | 1   | 199 |
| も っ と 高 く て 可 | 6   | 7   | 0   | 0   | 0   | 13  |
| 無 回 答         | 5   | 5   | 0   | 0   | 0   | 10  |

第 5 表

| 年 令 制 限 に | 通 常 | 特 別 | 終 身 | 名 誉 | 賛 助 | 計   |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 賛 成       | 65  | 25  | 0   | 1   | 0   | 91  |
| 反 対       | 144 | 60  | 2   | 1   | 1   | 208 |
| 無 回 答     | 7   | 6   | 0   | 0   | 0   | 13  |

第 6 表

| 準 会 員 制 廃 止 に | 通 常 | 特 別 | 終 身 | 名 誉 | 賛 助 | 計   |
|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 賛 成           | 177 | 72  | 1   | 1   | 1   | 252 |
| 反 対           | 28  | 10  | 1   | 1   | 0   | 40  |
| 無 回 答         | 11  | 9   | 0   | 0   | 0   | 20  |

#### (5) 正会員の年齢制限について (第 5 表)

年齢制限には、通常、特別会員の別なく、約 30% が賛成している。反対する会員の理由は、ほぼ運営検討委員会の第 2 次試案説明に書かれたものと一致しており、70% の意志を尊重するというので、試案どおり年齢制限なしとしたい。

#### (6) 準会員制の廃止について (第 6 表)

廃止に賛成が圧倒的である。反対者の中には、かなり強硬な意見もこころみられたが、強硬な点ではむしろ廃止賛成論者が一枚上のものであった。このあたりに、アマチュアの意識が顕著にあらわれているように思われる。

#### (7) 評議員選挙候補者について (第 7 表)

この問題は、運営検討委員会内でも意見の調整がつかなかったが、アンケートによって、“自然な”形態におちついたといえる。推薦候補者でも、候補者である以上、本人の承諾を得るのが当然であるが、委員会で持たれた危機は、特別会員の中に立候補制への不安がかなり残っ

第 7 表

| 本人の承諾を    | 通常  | 特別 | 終身 | 名誉 | 賛助 | 計   |
|-----------|-----|----|----|----|----|-----|
| 必要とする (A) | 148 | 59 | 1  | 0  | 1  | 209 |
| 必要とせず (B) | 59  | 27 | 1  | 1  | 0  | 88  |
| 無回答       | 9   | 5  | 0  | 1  | 0  | 15  |

ているのではないかと、ということだった。上の表によれば、通常、特別会員共に約70%がA案をとっており、正会員の年齢制限の場合と同様、最終答申としてはA案を採用することになった。

#### (8) 支部のおきかたについて

支部への所属のしかたは、とにかく利用しやすいように、というのが多数の意見である。これに関する意見の中でめだって多かったものをあげると、

- ・中国・四国・九州支部を分離する [通常9, 特別2]
- ・もっと細分化する (たとえば県単位) [通常10, 特別1]
- ・支部の下にさらに小支部(県・市)を設ける [通常10]

通常会員の、支部活動への熱意があらわれているが、同時に、学会支部を、単に同好者組織的に考えている会員もあるようで、地方の同好者諸組織との関連について考慮する必要があるようだ。支部の細分化は(中国, 四国, 九州についても)、支部を置きうるだけの場所と人の保証が最大の課題で、四国, 九州については早急に検討をはじめることになった。

なお、「今まで支部活動は何をやっていたのか、さっぱりわからない」という声が多数寄せられている。これについては、今までの「支部」は、活動を前提としたものではなく、支部活動をこれからは始めるための検討を現在しているのだということが、十分周知されなかった点は、委員会の説明が不十分であった。

#### (9) 支部活動について

非常に多くの意見が寄せられた。そのうち、多く寄せられた意見のみ列記する。

支部に対する理念的な意見としては、

- ・活動しない(金, 人, 場所に疑問) [特別1]
  - ・支部活動は学会の基礎として大切だ [通常5]
  - ・研究者, 教育者, 同好者の協力の場に [通常4]
- 活動上の要求としては、
- ・会員間の交流(同好者・研究者含む) [通常21]
  - ・観測指導 [通常9]

具体的活動については、

- ・講演会を開く(定期, 不定期) [通常15, 特別2]
- ・同好者・教育者の勉強会, ゼミ, 研究会 [通常17]
- ・例会 [通常14, 特別2]
- ・観測会 [通常14, 特別1]
- ・見学 [通常6, 特別1]

支部活動への要求として、同好者同志の交流と、研究者との接触が強く望まれた。また、天文教育の研究・交流・指導の場としたいとの要望がかなりめだだことが注目される。

#### (10) 刊行物について

##### ① 天文月報についての意見

月報の基本的方針について

- ・月報をわかりやすく, アマ向けに [通常14, 特別2]
- ・月報の編集, 発行はアマが中心にやる [特別2]
- ・月報は天文学会独自の内容でよい [通常6]
- ・月報をレベル・アップする [通常3, 特別1]

現在の月報への要望

- ・ページをふやす [通常8, 特別3]
- ・欧文報告の目次・要約をのせる [通常3, 特別1]
- ・現象・用語などの解説欄 [通常3, 特別1]
- ・アマ向けの欄の増設, 充実 [通常5, 特別1]
- ・観測の手引き [通常4, 特別1]
- ・内外ニュース速報 [通常4]
- ・連続講座や初歩シリーズを [通常4, 特別1]
- ・教材や研究に使える写真を [通常3]
- ・会員の観測・研究報告 [通常12]

##### ② 欧文報告について

- ・A会員も欲しい時に欧文報告を入手したい [通常5]
- ・欧文報告のサプリメントを出す [通常3, 特別1]
- ・出版敏速化 [特別1]

##### ③ 新しい定期刊行物について

- ・和文研究報告(「素粒子論研究」的) [通常2, 特別5]
- ・速報の発行(希望者のみに有料も可) [通常23]
- ・月報以外に, アマ向け雑誌を [通常5, 特別1]

##### ④ その他の刊行物について

- ・普及書・写真・図表などの刊行 [通常9, 特別1]
- 月報に対しては、まず現在の内容がアマチュア向きでないことに対する異論がめだつ。現在のものでよい、とする意見や、もっと高度なものとする意見も若干あったが、全体としては、月報を思いきってアマチュア向けのものとする意見が多数で、この場合、月報の編集にアマチュアが積極的に参加もしくはリーダーシップをとること、研究者むけには和文研究誌を出すこと、などが提案されている。ここにあげきれなかったもので、月報に対する建設的な意見も多く、これらを資料として、できる

ことから改善していくのが望ましい。

学会の刊行物として、速報の希望がきわめて多かった。速報は、現在かなり組織的に発行している同好者組織もあるので、学会としてこれを行なう場合には、速報の性格や、これら同好者組織との関連を十分考える必要がありそうである。

また、会員の間には、天文学の平易かつ最新の知識の要求が非常に強いことが、このアンケートを通じて知られた。

(11) その他、天文学会に対する意見

以上の各設問に対する答の他、天文学会に対する意見として、次のようなものがあった。

- ・ 学会活動は、年会、欧文報告のみでよい [特別2]
- ・ 年会などで、天文教育について活動の場を [通常3]
- ・ 研究者の情報交換に積極的便宜を [特別2]
- ・ 天文の普及、啓蒙に力を入れよ [特別1]
- ・ 軍研究者の学会活動を認めるな [特別1]

(12) まとめ

以上、各所でふれてきたが、運営検討委員会はこの集計をふまえて、学会改革の当面の方針を次のように定めた。

- ① 基本的に第2次試案の線で、春の総会に間にあうよう、最終答申をまとめて理事長に提出すべく作業を進める。
- ② 正会員の年齢制限は設けない。
- ③ 準会員制は設けない。
- ④ 立候補制は、A案とする。
- ⑤ 会費については、早急に検討する。
- ⑥ 評議員会の不信任条項を加える。
- ⑦ 正会員の紹介制や、団体会員についても検討しながら、定款改訂案を作成する。
- ⑧ 学会活動その他の問題については、寄せられた意見をもとに具体的な検討を行ない、できるかぎり具体的な形で新体制へひきつぎたい。

なお、最終答申を作成する運営検討委員会は、2月22日(日)にひきつづいて、3月5日に開かれる予定である。